

市長	副市長	部長	課長	課長補佐	係長	係	記録

(供覧) 総務課

【所属名：総務部企画財政課】  
【会議名：平成27年度第1回行政改革推進委員会】

開示  
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)  
不開示  
時限不開示 (開示: 年 月 日)

## 会 議 録

作成日 平成27年7月22日

日	平成27年7月22日	時間	13:27~15:10	場所	糸魚川市民図書館3階会議室
件名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長及び副会長の互選について</li> <li>・行政改革の推進について</li> </ul>				
出席者	<b>【出席者】</b> 山澤清臣 磯谷祐一 渡邊秀幸 大貫慶一 古田昌司 早川正明 松澤高志 森川孝智 猪又洋子 八木章 (10人) <b>【欠席者】</b> 北村雄一 (1人) <b>【推進本部】</b> 米田市長 <b>【事務局】</b> 総務部：金子部長 企画財政課：藤田課長 小林補佐 嵐口係長 猪又係長 古平主査 総務課：岩崎課長 井川補佐 渡辺係長 大西係長 仲谷係長				
	傍聴者定員	一人		傍聴者数	1人

### 会議要旨

※資料確認 (猪又係長)

- 1 開会 (藤田課長)
- 2 市長あいさつ
- 3 委員及び事務局自己紹介
- 4 会長及び副会長の互選 (事務局提案のとおり、互選)  
会長：山澤清臣 副会長：磯谷祐一  
(会長と副会長からあいさつ)
- 5 諮問  
市長が諮問書を読み上げ、山澤会長に渡した。  
(市長公務のため、ここで退席)

※議題に入る前に、【事務局】猪又係長から委員会の役割について説明 (資料No.1)

- 6 議題  
(山澤会長から、本日の会議は、15時を目途に進める旨の発言あり)  
(1) 行政改革の推進について  
**【事務局】** 小林補佐から第2次大綱、実施計画について説明。

【質 疑】

委 員：内容が分からないため、質問できない。何回か傍聴しているが、全てこのような説明だった。ポイントを絞って奥深い議論を1回でもしないとただの説明会で終わってしまう。ほとんどの人が、行政の素人なので、テーマに対し、どこまで検討していて、何が問題で、委員会に調整してもらいたいのか分かる資料をお願いしたい。

事務局：ご意見はごもっともで、今回は初回なので、市が進めている行政改革を全体で説明した。次回からは市民から意見をいただきたい項目などに絞って、進めていきたい。

副会長：例えば、実施計画 P1 の経費節減にある複写機使用料や電気料等の月々（前年同月）の点検や増減の原因とか、点検はどのようにしているとかの分析を踏まえたものであれば、委員としても分かり易く、判断しやすい。

事務局：実施計画では年度のトータルで示しているが、実際には月ごとに集計している。

事務局：月別に積み上げているので、表やグラフにして分かり易い資料をお示しできる。

会 長：企業の方にお聞きするが、業務の中で PDCA サイクルは行っているか。また、庁舎の経費削減について、目標値を定めて外部の意見を伺うということだが、委員としては報告を受けたことで、ああそうというぐらいであって、意見を申し上げられない。人員の削減についても、一律に削減ではなく、活かせば人材となるし、業績を伸ばすには人材が必要である。

事務局：PDCA 自体が時代遅れなのかもしれないが、計画したものを実行して、実行したものをチェックして改善する流れを PDCA で表している。企業では様々な改善方法があると思っている。行政改革は、庁内で粛々と進めるものと、市民の意見を聞いて進めるものの二通りあると思う。委員会では、市民の意見を聞いて進めるものに絞れば議論も分かり易くなる。人事管理についても、単に人を減らす目標管理でなく、業務量等を見て目標を定めているが、自治体の経営を考えると人口減少や景気が悪くなると歳入が減少するので、それに見合った組織体制が必要となる。職員の能力を高めて、なるべく減らしていくことが重要な視点だと思う。

会 長：市との関わりで、市で育てた専門職員にお世話になった。今までの人材育成も続けてほしいし、環境問題等も専門性を高めた人材が必要だと思う。また、委員の皆さんは、現場からの視点を持っておられると思うが、改善方法をお聞きしたい。

委 員：PDCA は、グループワーク（小さい集団）で取り組んでいる。また、トップダウン方式では、部で大きな目標をつくり、係・組にブレイクダウンしている。

会 長：企業であれば、目標が達成できなければ業務を潰したり、人員を減らしてどれだけやれるかを検討し、業績が上がれば人員を増やすなど、市の人事管理とは馴染まないと思う。

委 員：実施計画 P3 にある定員管理で合併時から 100 人減らしたとのことですが、合併当時とは現状（人口、仕事量など）が違っている。現在の適正な人数はどのくらいなのか。仕事に合わせた人員にしないと行政改革は出来ない。

事務局：類似都市と比べると 20 人程超過しており、原因は消防と教育関係などで、類似都市よりも面積が広いため。今年度、定員適正化計画を見直し、次回以降の委員会で説明していきたいと思う。また、人口 10,000 人当りの職員数の指標（事務事業ベース）では、当市は約 71 人で類似都市の中間に位置しているので、これらも参考にしながら行政改革を進めていきたい。

副会長：民間企業とは、業務の内容がかなり違っているので、われわれ委員はそこを認識しないと正確な意見は出しづらいと思う。統計等の作業であればOA機器を導入して人員の削減が可能であろうし、ガス水道業務であれば技術職が揃っているのか、委託業務を点検できる体制なのかなど、市の業務を正確に知ることのできる分かり易いものがあれば意見しやすい。改革は痛みを伴うので上手にやっていると職員の質も落ちてくるのではないかと。また、新人を育てることは大事な仕事で、OJTはグループ単位か全体的に行っているのか。

事務局：OJTは日常業務の中で、係長が中心となって実施している。

事務局：補足しますが、職員数の件で、類似団体（人口4～5万人）も、分野によってそれぞれの都市で特徴があり、全体では比較が難しい。産業・福祉・教育などのそれぞれの分野別の比較もひとつの見方なので、そういう資料を基に議論していただければと思う。

委員：市の財政規模は300億円ですが、10年後には200億円になると「長期財政見通し」で示され、実質公債費比率もだんだん上昇している。短期的（3、4年）には健全に感じられるが、10年、20年間隔で見ると恵まれた糸魚川市ではない。痛みを伴う改革が10年後でも出来るような検討を今から進めるべき。市長のいう「30年先も持続可能な」は、夢物語のテーマばかりで、少なくとも10年先を見据えた糸魚川市の改革をこの会議で議論していきたい。例えば、地区に移管する業務について、スピードアップしなければならないと思う。長期財政の視点からも見てほしい。

事務局：今年度末には、これからの10年間の長期財政見通しを作り直したい。併せて地方版総合戦略の策定や総合計画は今年、来年にかけて見直す。人口ピラミッドを見ると60歳以上が非常に多い形で、年間出生数も270人程に減っており、30年、40年と続くと人口30,000人を下回ることになる。これをどうにかしなければということで、今作っているのが総合戦略。具体的には、移住定住や晩婚化（特に男性未婚の増加）の改善により出生数の増加、外から労働者を連れてくる等の戦略を人口減の続く中で実施していくことがこれからの10年間だと思っている。

会長：どうしても生き延びてやるという視点が足りない。ただ、窓口業務の動きも良くなってきており、建設課と土地改良区が連携している等、ここ数年、合併の効果が表れてきていると感じている。そういった動きは育てていただきたい。これから人口は減っていく。それに伴い職員も減らしていく。ただ、新しいものを伸ばしていくには担当者（人）は必要であり、引き算でなく、「こうしていくべき」という事項の諮問であれば、皆さんの意見も出てくると思う。本日、説明いただいた内容（実施計画）は、庁内で進めるものであって、市民や委員会で納得してもらおう話ではないと思う。生き残りの視点で、議会とは違う形でのこの委員会があると思っている。市の中で芽が出てきていると感じているので、伸ばし、育てていただきたい。

## （2）その他

【事務局】猪又係長から資料No.2について説明。

## 7 その他

【事務局】猪又係長から次回開催の日程について

第2回委員会 11月上旬で調整

8 閉会 金子部長あいさつ（15：10 閉会）